

## 畜産生産へのヒューマスの活用について2

(社) 日本科学飼料協会で行われ公開された

8週間の試験結果の概要は、以下の通り。

(1) 発育成績

- 増 体：対象区に比べ2%程増加
- 飼料摂取量：対象区に比べ4~7%増加
- 飼料要求率：対象区に比べ1~4%増加
- 健康状態：異常を認めず

(2) 糞便からの発生臭気

- アンモニア：検出限界以下
- 硫化物：対象区に比べ減少
- 低級脂肪酸：対象区に比べ減少
- 臭気濃度：対象区に比べ減少。臭気の質が転換



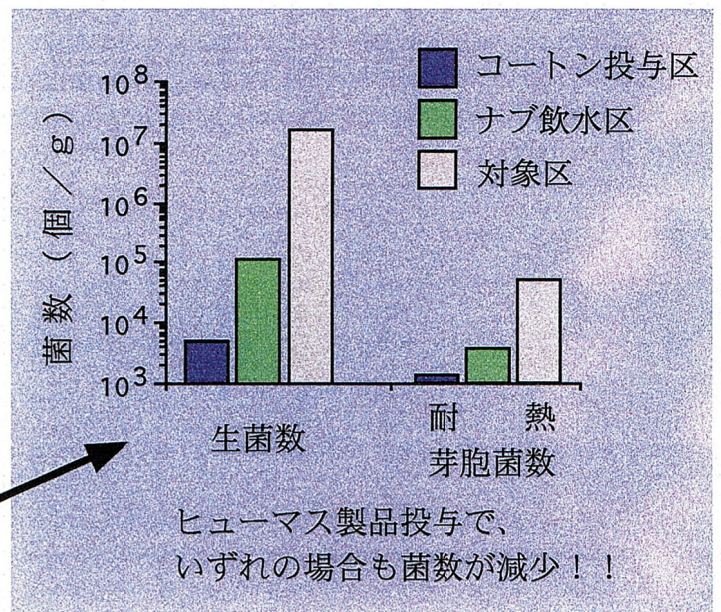
当社が、(株) ヤクルト中央研究所付属分析センターに依頼して行った分析では、豚の糞中の硫化水素産生菌の菌数減少が下記の通り確認できました。

生菌数 (個/g)

- ①コートン0.5%投与区：5.0×10<sup>3</sup>
- ②スーパーナブ飲水区：1.2×10<sup>5</sup>
- ③対象区：1.7×10<sup>7</sup>

耐熱性芽胞菌数 (個/g)

- ①コートン0.5%投与区：5.0×10<sup>3</sup>
- ②スーパーナブ飲水区：1.2×10<sup>5</sup>
- ③対象区：1.7×10<sup>7</sup>



菌数が  
1/10~1/1000に減少！

このことは、豚の腸の中でいわゆる善玉菌（ビフィズス菌等）が増殖し、硫化水素等を発生する悪玉菌を抑制していることを表しています。

旺盛な食欲・正常な摂食行動は、腸内環境の活性化に依存します。

飼料の消化吸収が順調に行われ、腸内微生物が健康であれば、排出される糞尿も臭気が低減化しています。

また、このような排泄物の発酵処理（堆肥化、汚水の活性汚泥処理）もスムーズに進みます。